

委員会開催概要

回数		検討・確認内容	今後の課題
第6回		<ul style="list-style-type: none"> ・対策手法別の評価は、資料の内容以外にも、素材、施工性やコストといった項目のほか、これまでの植生保護柵の植生回復効果に関する知見もふまえて、時間軸も考慮して取りまとめること。 ・土壌侵食対策工の組合せと配置については、大型の植生保護柵と他の対策との兼ね合いをどう整理するかということが論点の一つである。それについては、シカの対策とも関連してくるが、保護柵の有り、無しの2通りの場合分けなども考える必要があり、おそらく一通りの答えとはならない。土壌保全の緊急性、地形等の立地条件のほか、保護柵の効果に関する知見の視点から、取りまとめること。 	
H18.12.11	土壌侵食対策手法の現地への適用について		
かながわ県民サポートセンター	総合的な保全対策について	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌侵食対策は、全体的な事業の推進においては、統合的な枠組みを前提としながらも、実行上では緊急性によって独立して考えて実施する部分も必要である ・塩水川流域の具体対策と一方での手順書としての一般化については、整理不足。もし丹沢全域に一般化するなら、その有効性を裏付ける内容も盛り込むべき。 ・「課題設定と目標設定」から「対策手法の選定」の間にモデリングというプロセスが必要。モデリングするにあたって、おそらく最初は、分からないことばかりであるが、本来、順応的管理では、ある程度シナリオ予測を行った上で出発するというフローにしたほうがよい。 	